



Valle d'Aosta
Vallée d'Aoste

REGIONE AUTONOMA
VALLE D'AOSTA
ASSESSORATO TURISMO,
SPORT, COMMERCIO E
TRASPORTI
ASSESSORATO
ISTRUZIONE E CULTURA
DIPARTIMENTO SOPRINTENDENZA
PER I BENI E LE ATTIVITÀ
CULTURALI

RÉGION AUTONOME
VALLÉE D'AOSTE
ASSESSORAT DU TOURISME,
DU SPORT, DU COMMERCE
ET DES TRANSPORTS
ASSESSORAT DE
L'ÉDUCATION ET DE LA CULTURE
DÉPARTEMENT DE LA
SURINTENDANCE DES ACTIVITÉS
ET DES BIENS CULTURELS
Piazza Narbonne, 3
11100 AOSTA

ツーリスト・インフォメーション



Piazza Emile Chanoux, 2
11100 AOSTA
T (+39) 0165 236627
F (+39) 0165 34657
www.lovevda.it
uit-aosta@regione.vda.it

FOTOGRAFIE
Archivio Soprintendenza
per i beni e le attività culturali
Archivio Assessorato Turismo

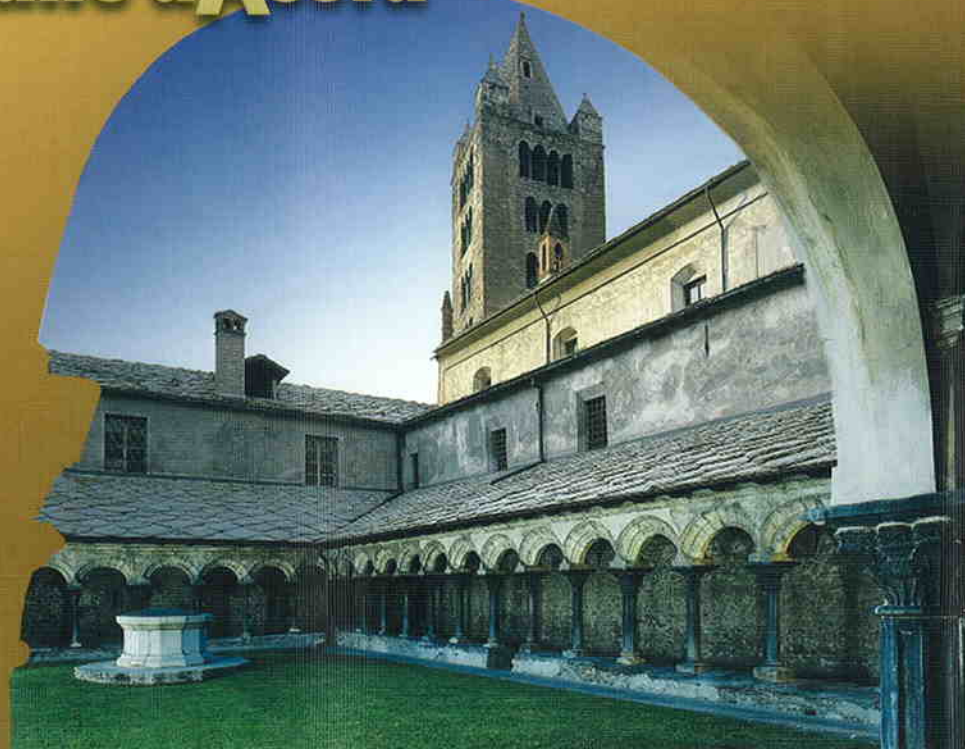
ART DIRECTION
Arnaldo Tranti Design
05/2009

GIAPPONESE EDIZIONE PRODUZIONE
Yoshinobu Kitamura

Arte

アート・ガイドマップ

Italia **Vallée d'Aoste**
Valle d'Aosta





Le prime traccedell'uomo 最初の人類の足跡



Epoca preistorica 有史以前

洞窟美術、古墳と共同墓地:アオスタ・ヴァレーには多くの有史以前の重要な古代遺跡があり、この地域に古代ローマ帝国勃興以前に人が住んでいたことを物語っています。

その中でも最も重要なのは、間違いなく、アオスタのセント・マーティン・コルレアンの大石遺跡で、紀元前3,000年に、最初は礼拝場であったのが、後に墓地に変わったことは、神人同形説の石碑、墓石、立石の発見によって示されています。

アオスタ・ヴァレーでは、シャテレ(セント・ピエール)が有史以前に集落があったことと、ヴィルネーヴとヴォツレン(クオート)に青銅時代の共同墓地があったことが明らかにされています。また、バルド、シェナル、バルマッセのように、洞窟美術が見られる多くの遺跡があります。

チェルティチ・リグリ(ケルト)族起源のサラッシ(古代アオスタ人)は、セン・バルテロミーのリニャンでは「カステッリエーリ」と呼ばれており、多くの集落や丘の頂上の要塞を作りました。これらの誇り高き勇敢な戦士達は、ローマ人達がやって来るまで、この土地を管理していました。

最終的に敗北するまで、60年間争い、紀元前25年にアウグスタ・プレトリアが設立されました。



・ A Cromlech at the Little Saint Bernard Pass
・ Anthropomorphic stele n. 30



何千年もの歴史
その遺産を あなたは
発見するでしょう。



La colonia romana ローマの植民地



Epoca romana ローマ時代

アウグストゥス皇帝が紀元前25年にアウグスタ・プレトリアを建設しました。ローマ人達は、この地域を5世紀に渡って支配し、その駐留を示す印象的な足跡と証拠が残されています。アウグスタ・プレトリア・サラッソルムは、ローマの植民地化のシンボルです。征服した領土を支配する重要な戦略基地で、ピッコロ・サン・ベルナルドとグラン・サン・ベルナルドのアルペン・ルートへのアクセス拠点でした。今でもこの町は、古代ローマ時代の長方形の町の地図を使っており、家の区画や道は、インスラと呼ばれるチェス盤のように真直ぐで整っており、デクマノ・マッシモとカルド・マッシモという2本の幹線道路がありました。ローマ風市外地だった主要な部分は今でも明白で、重要な建物にも見られます。アウグスタ門は、アウグスタ皇帝の偉大さのシンボルとしての記念建造物で、恐らくサラッシアンに勝利した年に建てられたのではないかとされています。アオスタの軍事戦略機能は、ここを取り囲む要塞壁によって強調されており、現在残っているローマ防壁の中でも、最も良く保存されています。四角形の塔は壁の隅とその周囲に等間隔で建てられています。現在でも元の特徴が最も良い状態で残っているのは、パイエロン塔とレップローゾの塔です。町に入る4ヶ所の入り口の内、表玄関であった西門のプレトリア門は、今でもそのまま残っています。この門付近のエリアは、公共の娯楽用の建物がありました。ここに壮大な劇場が建てられ、堂々とした南側の正面の壁は今でも残っています。また円形競技場は、現在コンヴェント・ディ・サンタ・カテリーナの一部になっていますので、部分的に見ることができます。アオスタで、ローマ時代の姿が一番分かるように残っていてお勧めできるのは、ローマ公共広場の偉大な建造物の一部で、力強い石灰華と大理石のアーチ型建造物で支えられた半地下の通路、クリトポルティコです。他の壮大な建設物は、この町を最も卓越した国際通過点に変貌させたゴウルへの道です。アオスタへと続き、そこからアルペン・ルートへと分岐しており、道中に建設された橋は、サン・ベルナルドとシャティオンのセント・マーティン橋を思い起こさせます。



・Cryptoportico, Aosta
・Fragment of a man's face, MAR, Aosta
・Bronze sword-belt, MAR, Aosta

Una Valle di castelli, torri e caseforti 城塔要塞で 満たされた溪谷



Architettura fortificata 要塞のある建築

11世紀に、アオスタのいくつかの名門が、アオスタの古代ローマ建築跡に、防衛と支配のために住居を建て、元来のローマの建築資材を使用していたものもありました。それ故、町には、トゥルネーヴ、トルレ・デイ・シニョーリ、フロマージ塔、トレ・デイ・ヴァリーヴィ、トレ・ディ・ブラマファン等の塔や要塞のある家が多く見られます。成功した地元セイグノリーは、アオスタ・バレーまでずっと続いている要塞建築を建設しました。12世紀に、地元の名門が地方に移り、主に戦略拠点にあった要塞を建設、修復していきました。グラインス(ブルッソ)、クリ(セン・デニ)とシャテル・アルジャン(ヴァイヌーブ)城は、最も古い城の数例です。14世紀頃、ウッセル城やヴェレス城のような防衛要素が軽減された一体鑄造の建物に変化していきました。ヴェレス城は堂々とした外観にも関わらず、格別に高品質な多数の細かい装飾が、正に、住居用の建物に変化していったことを示しています。最も重要なゴシック建築後期の例であるフェニス城は、14世紀半ばから15世紀初めにかけて、簡素で重苦しい要塞建築から宮廷生活のニーズに合わせて、再建、改装されました。15世紀最後に建てられたイツソーニエ城は、都会的な君主に相応しい宮殿に様変わりしていった最後の時代の建築です。現在の城の建築様式は、アオスタ・ヴァレーの後期ゴシック時代にただならぬ芸術の繁栄を齎した芸術の擁護者であるジョルジオ・ディ・シャランドによるものです。



・Fénis Castle
・Verrès Castle
・The market, fresco in a lunette, Issogne Castle

Un viaggio tra fede e arte 信仰と美術



Architettura e arte sacra 建築と崇高な芸術

アオスタで、キリスト教が早い時期に普及したことは、サン・ロレンツォ教会と太古の大聖堂の土台など、興味をそられる早期キリスト教の建築物遺跡によって証明されています。11世紀初頭、ブルゴーニュ地方出身のアンセルモ神父とブルカルド神父が、最も重要なウルバ教会や、大聖堂の屋根の下に当時のフレスコ画の一部が見られるセント・オルソ学院形式大教会の再建をしました。

12世紀において、大聖堂内殿やセント・オルソ修道院のモザイクやモザイク敷石は、装飾された歴史的な舞台の中心で、アルプスの反対側で作られた世界で最も優れた最高品質芸術、ロマネスク彫刻の一つの例でもあります。ロマネスクやゴシック時代に、教会は領土を管理するのみではなく、多くの教会や地方の礼拝堂の建設にも携わりました。

この建設段階と同じくして、金細工職人によって重要な金銀のオブジェが作られ、また地元の工芸家によって木工彫刻や家具も作成され、多数の重要なオブジェがアルプスの反対側から齎されました。15世紀には、聖職者が重要な美術品を擁護して、ドゥカート・ディ・サヴォイア中に広まったアオスタ・ヴァレーのゴシック美術品の一部が、高品質になりました。その後何世紀かに渡り、バロック全盛時代になりました。

17世紀末から18世紀初頭にかけて、木彫り職人のヴァルサヴァランシュ師によって、この時代のアルプス造形美術を代表する豪華に彫られた壮大な木製の祭壇が作られました。約30程のアオスタ・パリッシュ教会内にある宗教美術館では、傑出した芸術的遺産を賛美することができます。



- ・ Cloister, Collegiate Church of Saint Orso, Aosta
- ・ The Nativity, Cathedral, Aosta
- ・ Christ crucified, Castle chapel, Fénis

Testimonianze di vita contadina 垣間見る地方の生活



Architettura tradizionale 伝統的な建築

アオスタ・バレーの地形と自然環境は、独特の場所を作り出しており、住居や田舎の建物、村、段々畑、アルプスの牧場、小道や運河などが、アルプスの環境にいかに対応してきたかを示しています。伝統的な建物は、主に木と石で建てられていますが、ニーズによってその素材も変わってきています。

多くの村の中でも、グレスノイ渓谷のアルペンやアヤス渓谷のマスコニャ、ヴァルサヴァランシュ・ヴァレーのティニェ、ヴァルトルナンシュ・ヴァレーのシェネイは、過去の田舎を感じ取りたい人には、絶好の場所です。この谷の小村の細い道を歩いていくと、想像を絶する田舎の牧場文化の顕著な例や自然環境への適応に則した建設技術を見つけることができます。



- ・ Villaggio di Nex, Valsavarenche
- ・ Particolare architettonico di un rascard, Mascognaz

Musei e sedi espositive 美術館と展示場



- ・ Forte di Bard



アオスタ・バレーには、コーニエのダイネ宅やラ・サル・ジェルポリエ宅、アヴィースのモス宅、イントロッドのブルイル宅、ヴェレスのカッシーナ・レムラッセ宅などの伝統的な建物が多くの美術館や展示場に作り変えられています。この地方で最大の町にある2つの主要な展示場である古代館とセント・ベネン・センターは、モダンアートやコンテンポラリー・アートの展示会や企画展などが行われる展示ホールがあります。修復作業完了後、フェニスやイツソニーニエ、サルなどの多くの城や要塞も公開されています。

山を取り上げている文化センターのバルド要塞はアルプス博物館になっており、アルペンの世界へバーチャルで旅立つことができます。アオスタでは、地域古代博物館(MAR)が発掘によって発見された遺跡の展示により、有史以前やローマ時代が明らかにされています。他の重要な博物館には、コーニエのアルペン鉱物博物館やグレスノイ・セント・ジーン・アルペンファウナ博物館、セント・ニコラスのセルローニエ美術館、イントロッドのジョン・ポール美術館、クールマイユールのドゥカ・デッリ・アブルツィ・アルペン博物館、セント・ピエールの科学博物館などがあります。



Ponte romano - Pont-Saint-Martin
リス急流に架かっているセント・マーティン橋は、この領土の支配と輸送を容易にするため、ローマ人が行った多くの土木工事の一つで、高さ23メートル、長さ36メートルと、中間支柱が無いものでは格別長い歴史的価値のあるローマ橋です。19世紀半ばまでは、アオスタへ横断する唯一の手立てであり、現在では、最高の状態で維持されているローマ橋です。



Ponte di pietra - Aosta
ブシエ急流に架かるアウグスタ皇帝時代に建設されたローマ橋は、大きな荒削りした石板でできた直径17メートルの丸いアーチ型の橋です。何百年にも渡り、橋は徐々に浸水によって沈んでいき、11世紀には、急流がその水路を、現在流れているアウグスタ門付近へと変えました。



Porta Prætoria - Aosta
かつての町の東門は、現在残っている最大のローマ門です。みごとに保存されたこの門は、二重の礫石壁と3つのアーチでできているアウグスタ・プレトリアの建設時代まで遡ります。



Criptoportico romano - Aosta
クリプトポルティコは、アウグスタ皇帝の時代に建てられた半地下建造物で、通路と石灰華大理石で出来た堂々としたアーチを支えられた複回廊があります。構造上、地面の高さの差を調整し、隣接された神聖なエリアを取り囲む柱廊玄関を支えていました。(隣にある2つの神殿の基礎は、今もあります。)恐らく、屋根付きの通路で、公共広場の柱廊玄関の延長であったと思われる。



Ponte-acquedotto romano di Ponderl - Aymavilles
紀元前3年に建設された水道橋で、強力な植民地開拓者のカイオ・アウリリオ・カイモに所有し、恐らく自分の土地に水を引くために作ったのではないかとされています。屋根付きの通路とそこを流れている水道は、とても際どく大胆です。



Castel Savoia - Gressoney-Saint-Jean
ウンベルト王1世が、マルグリータ女王に敬意を払って1904年に建設した城です。グレンネイにあるこの王家の屋敷は、折衷的なスタイルで設計されており、1990年に、植物園が城の大庭園に作られました。



The Verrès Castle
1390年頃、イブレット・ド・イ・シャランドによって建設されました。無数の窓や2つの仕切り窓とアーチ型の扉が、堂々とした立方体の石造りの建造物を、より魅力的にしています。内部には歴史的価値のある階段と、アオスタ・バレーで最も美しい大きな暖炉が幾つかあります。



Castello di Sarre
アオスタの町近郊の小丘に位置し、谷の上部への出入りを支配していました。建築物自体は恐らく12世紀に建設されましたが、現在は18世紀最初の10年間の姿が残っています。1869年にヴィットリオ・エマヌエル王2世が、狩猟小屋として購入し、勝利品の展示室や大広間は魅力的です。現在は、アオスタ・ヴァレーでのサヴォイ家の存在を示す博物館になっています。



Strada romana - Donnas
アオスタは、イブレアからリオンに行く基本的な通過点でした。19世紀まで、ガウルへ行く執政官道が使われており、現在でもその遺跡が見られます。岩や平らにしたこぼこ道、張り出した山側に立てられた空積み石壁や大胆にも急流の上に作られた橋などを通過して行きます。特に、アヴィス自治体のピエール・タイレ(切石)地域や、岩から切り出した砂利道の上のアーチと彫られた内壁のあるドンナは必見です。



Arco d'Augusto - Aosta
アウグスタ門は、町の基礎が作られた紀元前25年に、ローマ軍がサラッシに勝利した記念として建設されました。様々な様式が混ざった礫石作りの凱旋門です。壊れていった屋根裏は、1716年にストレート屋根に作り変えられました。



Teatro romano - Aosta
後に一部修復されてはいますが、堂々とした建物は、アウグスタ時代まで遡ります。歴史的価値のある建物の正面下部には、頭上アーチ状になっている大小様々な窓のある一組のアーチ型建造物があります。かなり独特なのは、市民のために確保された固定屋根のある長方形の劇場観覧席です。



Area megalitica di St-Martin-de-Corléans - Aosta
この巨石遺跡は、紀元前約3000年から1900年に、神聖な場として使用され、耕作の儀式が執行されたり、柱や立石、ドルメン、墓地、華美な神人同形説の石碑、壇などの建造物が配列されていました。



Cromlech del Piccolo San Bernardo
クロムレという語は、ストーン・サークルという意味で、礼拝や観測の場として使用されました。明確な年代は不明で、もっと古いという説もありますが、青銅器時代ではないかとされています。イタリアとフランスの国境に位置するピッコロ・サン・ベルナルド道にある大きなストーン・サークルは、イタリアで発見された数少ない内の一つで、歴史的、天文学的観点からも、かなりの関心が示されています。クロムレは46個の石ではほぼ円形状に形成されており、中心に巨石が設置されている場合もあるのが見逃せません。



Forte di Bard
バルドに要塞集落が初めて出来たのは、6世紀と言われています。1800年に、中世の城がナポレオン軍によって全壊された後、何日も抵抗が続きました。現在建っている要塞は、1838年に完成され、1975年に軍に放棄され、現在では、アルプス博物館になっています。



Castello di Ussel
1343年に建設された姿を、今も留めています。19世紀に、バツセリ・デントレヴァ家からビック家に所有権が譲渡され、最後の修復工事の後、企画展ホールになりました。



Castello Sarrird de La Tour - Saint-Pierre
高い壁に守られた城がセント・ピエール自治体に建設されました。20世紀初頭まで、サッリッド・デ・ラ・ツール家が所有していたこの城は複雑な建築物で、複数の建物から成り立っており、様々な時代に建増しや改修もされました。礼拝堂には13世紀のフレスコ画があり、大広間には、171の彫刻が施された受け材で支えられた有名な木の天井があります。



Chiesa paleocristiana di San Lorenzo - Aosta
5世紀における太古の教会は、ラテン十字型聖堂で、両端に後陣がありました。カロリアン朝時代に破壊され、11世紀から12世紀に再建され、ゴシック時代に改修されました。現在の建物は、17世紀に再建されたものです。



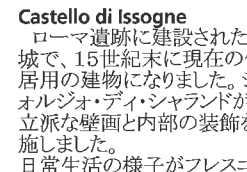
Villa della Consolata - Aosta
古代ローマの荘園は、コンパクトな長方形の土地に住居がありました。共和国の元の構造は何度も作り変えられ、特に2世紀には顕著でした。



Castello di Issogne
ローマ遺跡に建設された城で、15世紀末に現在の住居用の建物になりました。ジョルジョ・ディ・シャランドが、立派な壁画と内部の装飾を施しました。日常生活の様子がフレスコ画で描かれた柱廊玄関に囲まれた中庭には、赤褐色の鍛鉄でできた噴水があります。



Castello di Fénis
類い希な建築物と重厚な力を感じる銃眼付きの胸壁を備えた塔で有名な城です。現在の姿は、長年に渡って何回も行われた改修工事の結果ですが、16世紀半ばにアイモネ・ディ・シャランドが行った改修が最も重要でした。注目に値するのは、15世紀最初の10年間に作られた中庭や礼拝堂のフレスコ画です。今はアオスタ・ヴァレー家具博物館になっています。



Castel Savoia - Gressoney-Saint-Jean
ウンベルト王1世が、マルグリータ女王に敬意を払って1904年に建設した城です。グレンネイにあるこの王家の屋敷は、折衷的なスタイルで設計されており、1990年に、植物園が城の大庭園に作られました。

Churches and Sanctuaries



The Introd Castle

13世紀の正式な公文書に存在が示されている多角形の城は、複数の住居と、恐らく他の建物より古い四角い塔で構成されています。19世紀に、数回の火災で建物、公文書や貴重な備え付け家具が破壊され、1910年に修復されています。



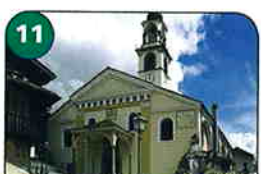
The Quart Castle

要塞に囲まれた城には、複数の建物があり、14世紀のフレスコ画が一部残っている岩の最も高い場所に建てられた古い天守閣と、見事な漆喰細工で飾られ、17世紀初頭に再建された礼拝堂は必見です。現在は、歴史的価値の高い木々のある森で囲まれています。



The San Giacomo Church (Museum) - Issime

現在の建物は、17世紀にユニバーサル・ジャッジメントを代表するフレスコ画が、建物の正面に描かれた時、全面的に再建され、壮大な高い祭壇も作られました。入り口には、宗教美術館があります。



Chiesa di San Martino (Museo) - Antagnod

19世紀に、巨石の柱が3つの身廊を分ける建物に再建されました。内部には、1716年に奉献された谷で最も重要なバロック祭壇の一つがあり、様々な時代の多くの見事な彫像で装飾されています。墓地の礼拝堂には、宗教美術館があります。



Cattedrale di Santa Maria Assunta - Aosta

この大聖堂の建築と美術は、ローマ時代から19世紀までの歴史を育んでおり、考古学の発掘により、教会の4世紀以降の様々な建設段階を追跡することが可能になりました。堂々とした規模の太古の建物の上に建てられ、後に最初のキリスト教者達の礼拝の場として使用されました。原典によると、現存している構造物の核であるロマネスク教会は、994年から1026年まで、アオスタで司教をしていたアンセルモが建設したとされています。

6世紀の名残があるのは、屋根の下から回収されたフレスコ画のみです。歴史的価値のある建物の正面は、1430年代に聖母マリア被昇天のために奉納建設されました。19世紀には、更に新古典派様式に改装され、回廊には、聖堂の秘蔵品である重要な宗教美術品が展示されています。



Chiesa di Santa Maria Assunta - Morgex

アオスタ・ヴァレーで最も古い教区教会の一つで、ヴァルデーニャ地域で重要な役割を果たしていたことが、重要な宗教美術品の発見によって証明されています。ロマネスク様式の教会は、時は、クリプトボルティコの上に建てられ、後に最初のキリスト教者達の礼拝の場として使用されました。内部には、様々な時代の絵画や見事なバロック祭壇と貴重な教会区美術館があります。



Villaggio di Mascognaz - Ayas

17世紀の前半に建てられた典型的な山村の建築的、歴史的価値のある建物です。



Cascina La Ola - Intro

15世紀から16世紀にかけて、城壁の南側に建てられ、アーチ門が特徴的な母屋と馬小屋と納屋が2つあります。離れには、住居と収穫物を乾燥させて保存する広間があります。



Castello di Gamba - Châtillon

カルロ・サロルディが設計したマウリス・ガンバ男爵の城は、1911年に完成されました。堂々とした建物は、中心にある塔が特徴的で、古木の中を散歩できる広い庭に囲まれています。



Castello di Aymavilles

近年の考古学的発見によって、太古の天守閣の遺跡が明るみに出ました。既に貴重であった14世紀の建造物に、15世紀初頭、四隅の塔が建て増されました。18世紀初頭に、この古代の城は威厳のある住居となり、現在は広い大庭園に囲まれています。



Santuario di Machaby - Arnad

16世紀に建設された聖マリア聖堂は、ラバの道を歩いて行ける栗林の中にあります。18世紀末に、両側の身廊が建て増されました。8月5日に「聖なる雪の夫人」の祝典が行われます。



Collegiata e Priorato di Sant'Orso - Aosta

11世紀最初の10年間に、アオスタの町でも並外れた芸術的関心を引き建築物であるこの教会が、カロリーニャ時代に変形したキリスト教初期の建築物遺跡に建設されました。ロマネスク教会で残っている遺跡は、地下聖堂とフレスコ画の一部だけです。

12世紀に、1133年の歴史的場面が描かれた美しい柱頭のある中庭を囲む回廊と、ライオンを殺したサムソンが描かれているモザイク敷石が内陣に作られました。後期ゴシックの側面は、15世紀末、見事な煉瓦で装飾された隣の修道院次長公邸の建設と同時期に行われた再建時に引き出されました。この教会には、貴重な美術品や美しい備え付けの木製祭壇や聖歌隊席があります。



Chiesa di Santa Maria - Villeneuve

シャテル・アルジョン城付近に聳えているロマネスク様式の教会で、現在の建物も、何層に渡る、装飾された層の形跡を残しています。



Castello di Nus

建物の最も古い部分は、14世紀に建設され、長い歴史の中で、何度も改修されましたが、入り口の台輪に日付が彫られている1595年の最後の修復工事の後、現在の姿となりました。



Castello di Châtel Argent Villeneuve

戦略上、特に重要な場所にある小さなローマ要塞の上に建てられており、丸い塔とロマネスク様式の礼拝堂から成り立っています。



Chiesa di San Martino (Museo) - Arnad

装飾された典型的な大谷石製の正門と石壁が修復された1950年代に、元のロマネスク建築様式に復元されました。15世紀の興味深いフレスコ画が保存されています。

Traditional Architecture



17世紀の前半に建てられた典型的な山村の建築的、歴史的価値のある建物です。



15世紀から16世紀にかけて、城壁の南側に建てられ、アーチ門が特徴的な母屋と馬小屋と納屋が2つあります。離れには、住居と収穫物を乾燥させて保存する広間があります。



Petit-Monde - Torgnon

典型的な居住山村のトリアテ、エティロール、ロンを含むこの地域は、プティ・モンドと呼ばれています。トリアテには、興味深い民俗学博物館が、農村建築の建物内にあります。



Maison Bruil - Intro

屋根付きの中庭がある人目を引く大きな現在の建物は、建築改革が行われた1680年から1856年に建設されました。アルペン食物博物館があります。(夏季公開)



Santuario di Notre-Dame de Guérison - Courmayeur

美しいモンテピアンコを臨むベリエーに位置し、アオスタ・ヴァレーで最も知名度が高く、訪問者も多いこの聖堂は、1868年にジャン司教が奉献しました。壁は絵や刻板、哲韻の供物で覆われ、長年ここに祀られている聖母マリアの信仰を証明しています。



Borgo di Etroubles

ローマ時代に、山道の守備隊が冬に駐留した場所ではないかと言われており、ナポレオンもイタリアに行った時に宿泊しました。1317年にホスピスが作られ、19世紀でも使用されていました。この小村には、面白い現代美術野外美術館があります。



Maison de Mosse - Avise

ダヴィスの名門が、ガウルへ続くローマ街道付近のルナに、この要塞邸宅を建築しました。15世紀末には、要塞のある建物が住居になり、後期ゴシック様式の美しい窓は、16世紀に作られました。企画展が行われます。